

会計という結果から 業務にさかのぼる

講師

青山公認会計事務所

ITコーディネーター

青山 恒夫氏



Tsuneo Aoyama

東京都在住
公認会計士、税理士、ITコーディネーター
東京都荒川区を拠点に、経営・会計・IT（情報技術）の3つの視点から中堅・中小企業の経営基盤強化を支援。

ITコーディネーターの青山恒夫氏は、職業会計人（税理士、公認会計士等）に呼びかけて、2004年9月、オービックビジネスコンサルタント（OBC）の奉行シリーズを対象にした「会計人奉行活用研究会」を設立した。本研究会の目的と、会計ソフトを有効に活用する視点についてお話しいただいた。

「会計人奉行活用研究会」はオービックビジネスコンサルタント（OBC）のソフトを使っている会計人が集まった団体であり、利用者の目で活用法を研究し、顧問先や関与先へのフィードバックを指向しています。独立した存在ですが、OBCの担当者の方との情報交換は活発です。パッケージソフトというツールと経理の専門家のスキルが出会えば面白いビジネス展開ができるのではないかと考えています。

成果物を出すことが目標

研究会は二つの分科会があります。一つは奉行シリーズの「活用研究」で、勘定奉行、商奉行や蔵奉行などの使い方、職業会計人の視点からのシステムとの接し方、分析資料の作成法など、現実につづかる課題を共通の疑問として持ち寄り、Q&Aにまとめています。これらは是非、成果物として小冊子にしたい。

OBCにとっても職業会計人と接点を持つことで最終ユーザーの顔が見えやすくなるというメリットがあります。製品に対する生の声は今後の改善に役立ちますし、職業会計人

のアライアンスを強化する中で新規顧問先を開拓できればと考えます。
会計ソフトと業務ソフトの連携

ただ、会計ソフトの導入を支援する際は、企業規模や利用法を見極め、広い選択肢から選ぶ必要があります。よって、例えば勘定奉行なら、どんな企業・用途に向くのかをあらかじめ理解しておきたいものです。

私は職業会計人である一方、ITコーディネーターでもありますから、会計は押さえつつもそこにとらわれず経営全体を視野に入れ、会社に踏み込んでいこうとしています。

というのも、会計ソフトに仕訳をきちんと入力すれば決算書はできる。しかし、経営者の方はそのくらいは把握していらっしゃる。そこで、貸借対照表の商品在庫を見て、「この在庫の中身は？ 実際は不良在庫で資産ではなく損失になるものも多いのでは？」

と問いかけることで、在庫の内訳、すなわち業務にさかのぼることができ、すると在庫も管理しよう、販売数値も押さえようと、会計を入口に話が深まり、会計顧問から経営顧問へと立場を変化させられるわけです。

奉行シリーズは、会計ソフトと連携できる販売管理や在庫管理などのラインナップが豊富ですので、会計から経営課題に入るに伴い、段階的にソフトを増やすことが可能です。このような展開を視野に入れると、会計ソフトに勘定奉行を選択する意味がとりわけ高まってくるはずです。

Q&Aの冊子は半年後くらいには完成させたい。そして、奉行ユーザーにもっと便利な使い方をご提供したり、ソフトの適用範囲を広げたりと、ビジネスに広がりを持たせたい。奉行導入支援を通じて、職業会計人自身も企業と深いお付き合いができる環境を持てるようになるでしょう。

お問い合わせ先

株式会社オービックビジネスコンサルタント

東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー
URL: <http://www.obc.co.jp/>

(談)